長崎高教組新聞

発行
〒850-0013　長崎市中川２丁目２番５号
長崎高教組会館　長崎県高等学校教職員組合
☎　(095)-827-5882
FAX　(095)-826-2976
編集責任者　平井秀治
一部　１０円

高教組メールアドレス
info@nagasaki-kokyoso.org

佐世保中央高分会から

53人目の加入届く

「一緒にやりましょう」が奏功

あと３２人の加入で昨年人数回復

佐世保中央高（昼）分会で新規加入が実現し、８月８日、加入届が送られてきました。

加入の理由は述べられていませんが、分会が本人の願いを高教組運動とつなげて「一緒にやりましょう」と声を掛け、当人がこれに前向きに応えたものと考えられます。

○

本年度の加入は５３人（新規加入９人、再任用等継続４４人）となり、あと３２人の加入で昨年の組織人員を回復することとなります。

玄海原発の誘致・建設の経過

カネが人々の心を崩した

原発立地の条件は　無知と貧困

日本政府が「非核日本宣言」を表明することなどを求めて活動する「非核の政府を求める長崎県民の会」（常任代表世話人　中村尚達弁護士ほか２人、平井高教組委員長は常任世話人のひとり）は、７月２６日、長崎市で総会を開催。そのなかで、「九州電力玄海原発の問題点」とする講演がありました。講師は玄海原発対策住民会議前会長の坂本洋さん。誘致・建設の状況について、その要旨（一部）を紹介します。

６５年７月、佐賀県民が原発建設を初めて知った。それ以前から九電と県は打ち合わせを重ねてきた。

建設地は「佐賀県のチベット」と称されるような貧しい地域で、今回の福島原発でも「浜通り」は「福島のチベット」と言われていたようでやり方が同じ。原発の立地には、無知と貧困が条件と言われる。科学の最先端がやってきて、「ひょっとしたら、いいことがあるのかなぁ」と思わせるのである。

対して初めから「危ない」と指摘したのは、玄海町の寺の住職であった。住民レベルの対策会議が発足したのは７３年であった。

カネが動き出して、特に闇のカネが、人々の心を崩していった。子どもはカネがすべてと思うようになり、唐津の繁華街が若者で賑わい、やがて中州にタクシーで乗りつけることも。

町の財政でも闇のカネが話題になったこともある。横領事件で前町長が逮捕されることもあった。県の監査でさえ、町の闇のカネに対し、「強いてあげれば、企業からの一時預り金である」という監査報告を行ったこともあった。

安全かつ正しいことであれば、ジワジワと支持が広がるのが常である。

九電による説明会の席上、当時の佐賀高教組委員長が、九電が示した青写真に煙突があり、これに注目して質問した。

「煙突が立っているが、なぜ煙がでるのか？」

九電側は、この質問に答えることができなかった。顔が引きつっていた。しばらくして、九電は答えた。

「煙突ではない。」

これに対し私たちは、「じゃ何か」と再度問うと、九電は渋りながら言った。

「原発の運転で、放射能を放出するもの。しかし、殆ど出ません。」

私たちは、『殆ど出ません』とはどのくらいをいうのか」などと重ねて尋ねたが、九電は答えることができなかった。

いままでの「心配ない、安全」という説明が崩れた瞬間であった。誤魔化してきた事実が明らかになった瞬間であった。

こうした経過のなかで建設が強行されたのである。

（文責・情宣部）

◆トライアスロン　深松博文さん◆

魅せられて

レース中は「やめたい、やめたい…」ゴールで「味わう爽快感、充実感」

長崎支部の支部長である深松博文さんは、長崎鶴洋高校で数学を担当する教師です。そして、トライアスロンに魅せられ、大会に出場し始めて５年目の人でもあります。本年６月に行われた五島での「バラモンキング」大会の記録は１３時間４０分でゴールし、「やり遂げた爽快さ、充実感を味わう」。

なぜ長時間のレースにこだわるのか、その思いなどを深松さんに尋ねました（情宣部）。

バラモンキング大会に挑む深松さん

ーどのような競技ですか。

スイム・バイク・ランの三種目を続けて行う競技です。国内でメジャーなのは、順に１．５ｋｍ、４０ｋｍ、１０ｋｍを競うもので、オリンピック競技でもこれで行われています。ロングは順に３．８ｋｍ、１８０ｋｍ、４２．１９５ｋｍです。これは国内では４大会のみで、ロングの制限時間は１５時間です。

ー５年ほど前から始めたきっかけは何だったんですか。

五島のアイアンマン大会、ロングだったのですが、この大会のボランティアをしていて、感動を覚え、自分もやってみようかなと思って。

ーそれで決意して、トレーニングを重ねて行くんですね。どのような練習をやっていますか。

平日は日替わりで１種目を１時間程度やるだけですよ。高校時代は卓球をやり、その後は楽器にはまっていました。

ートライアスロンといえばアイアンマンという名のように、過酷なスポーツをイメージするのですが、レース中は何を考えて挑んでいますか。

トレーニングを重ねることで、チャレンジできるし、決して過酷とは思いませんね。しかし、レース中は何度も、何度もやめたい、なぜこんなことをしているのだろうと考えてばかりです。

ーいままで何回ほど出場、その主な大会は。

ロングは年に１回ペースで計５回、ショートは年に２回ペースで計１０回程度出場しています。本年は、五島長崎国際大会『バラモンキング』に出て、昨年は済州島で開かれたアイアンマンコリアに、一昨年は沖縄の宮古島の大会などに、いずれもロングでしたが、出場しました。

ー「トライアスロンをやって、よかった」ということは何ですか。

月並みの感想ですが、精神的にも肉体的にも力強くなった。それに、教職員組合と同様に仲間ができることですね。酒はもちろん、食べ物がおいしくなりました。健康の証でしょう。そして、時間を計画的に、上手に使えるようになったことなどです。

ー高教組をもとにつながっている私たちは、応援していますからね。

ありがとうございます。

生徒が懸命に拾い集めてくれたアルバム　人形　カバン　時計…

震災支援ボランティア活動報告Ⅰ

全教が募集した東日本大震災支援ボランティア活動に、生徒３人とともに参加した江頭清隆さん（佐世保支部書記長　佐工定分会）から活動の様子を知らせてもらいました。２回にわたって掲載します。